

【海の学校 in 愛知 実施報告書】

2022年6月12日（日）

実施：たはらサンドアート実行委員会

―― イベント概要 ――

- ・名称 海の学校 in 愛知 ～ SDGsを学ぼう ～
- ・日時 2022年6月12日（日） 9時00分～14時30分
- ・会場 赤羽根ロコパーク 赤羽根市民館
- ・概要 田原市内の発達障がい児を含む児童・生徒達の参加者に海を舞台にした諸活動を通じて、SDGsを学ぶプロジェクト

1.海のふしぎ発見！ 2.ビーチクリーン 3.サーフィン体験教室 4.プラゴミアート教室 5.海日記

- ・目的 青少年の身体と心を育む【海を学ぼう！】
- ・対象 田原市民、県民
- ・主催 たはらサンドアート実行委員会
- ・共催 一般社団法人 海の学校
- ・後援 田原市・田原市教育委員会
- ・協力 田原市サーフィン協会、至学館大学
- ・助成 日本財団「海と日本プロジェクト」

―― イベント結果 ――

参加者数：90名（小学生31名、保護者25名、スタッフ・ボランティア34名）

メディア露出：中京テレビ、中日新聞、東愛知新聞



——海の学校 in 愛知 実施レポート——

イベント当日は風が強かったものの晴天に恵まれ、また、事前予約制でしたがキャンセル等もなく予約者全31名の小学生とともに、全てのプログラムを無事実施することが出来ました。また、水分補給を随時促すなど熱中症対策と感染症対策を十分にし、トラブルなどもなく無事に一日を過ごすことが出来ました。本活動を通じて、子どもたち達はもちろんその保護者にもより深く地元にある海のことを知っていただき、SDGsについて知識・理解を深めていただくことができた実感しました。また、実施して終了ではなく、子どもたちが一生懸命に描いた「海日記」を地元の田原市図書館に一定期間展示することで、海の学校参加者だけでなく広く田原市民にも発信ができました。

1.海のふしぎ発見！ 9:00～

海の環境や生態などに精通しているBlueDrop代表の松野弘美さんを講師として、「なぜ海岸の草は背が低いのか？」など子どもたちが興味を引くような「海のふしぎ」に迫るワークショップを行いました。目の前の海岸が教科書となって、付き添いの保護者も思わず「なるほど！」と思うような新しい発見がたくさんありました。



2.ビーチクリーン 9:30～

実施前に深刻化しているマイクロプラスチックの説明を行いました。とても小さなマイクロプラスチックの大きさにみんなびっくりした様子でした。単なるビーチクリーンではなく、プラゴミアート教室に活用出来そうなゴミも拾っていきました。



3.サーフィン体験教室 10:30～

海の学校校長兼プロサーファーの堀口真平さんや地元プロサーファーの杉原康幸らが講師としてサーフィンやボディボードにチャレンジしました。海で気を付けること、海の中でのルールなどを学んだうえで、行いました。



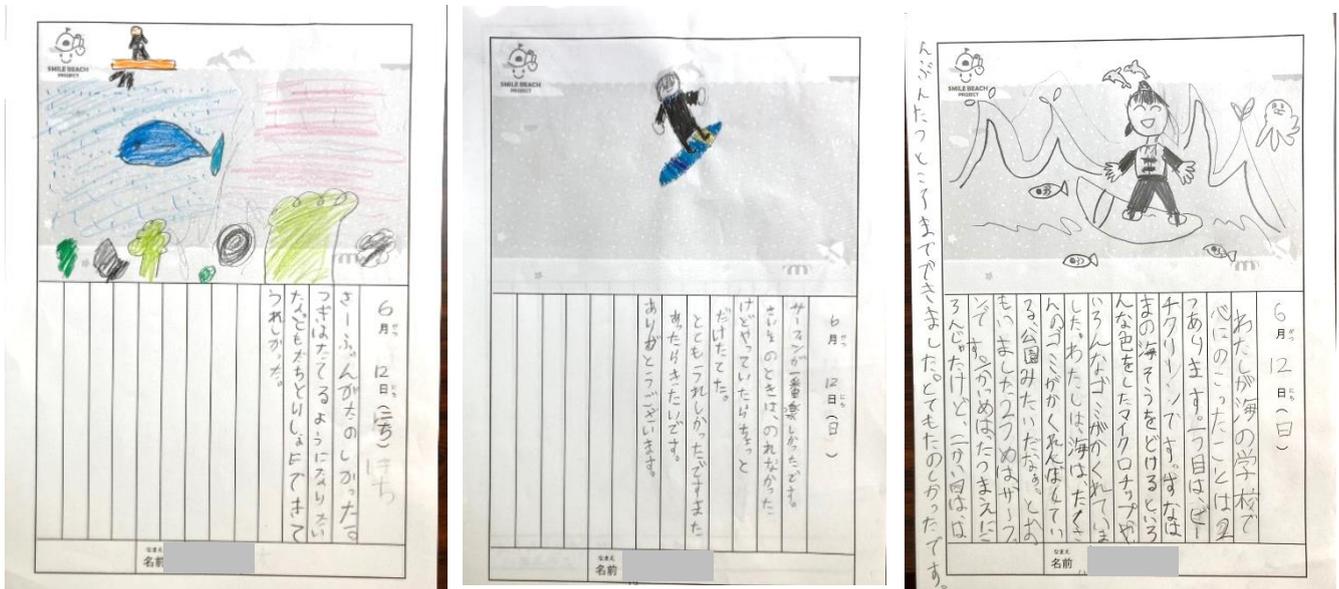
4.プラゴミアート教室 12:30～

SDGs for school認定エドケータのいだまきさんを講師として、SDGsや環境について話を聞いた後、ビーチクリーンで拾ったプラスチックゴミや貝殻、流木などを使って、ネームプレートを作りました。本来ゴミであった物を有効活用してオリジナル作品にすること、みんなで少しずつ協力してメッセージ旗をつくることで、SDGsの理念を深く共有することができました。



5.海日記 13:30～

一日を振り返り、体験した様々な思い出を絵日記にしました。感じたことをアウトプットすることで、自分と海や自然との繋がりや海が楽しい場所であることを再認識する機会となりました。また、地域の方の海への理解を深めるために、子どもたちの海日記や作品などは、6/21～7/3まで田原市中央図書館にて展示されます。



—— イベントの様子 ——



<受付>



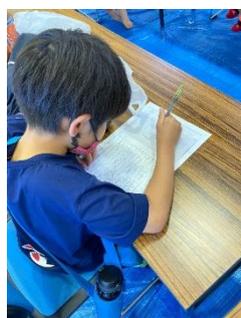
<学生ボランティア事前説明>



<準備体操>



<ネームプレートの作り方の説明>



<海日記の作成>



<子どもたちが制作したネームプレート>



<学生ボランティア>



―― 報道 ――

<中京テレビ 6月13日放送>

CHUKYO TV NewsWEB

海を通してSDGsを学ぶイベント開催 子どもたち30人が参加 愛知・田原市

報道局・豊橋支局 愛知 2022/06/13 6:00

©中京テレビ 天気ニュース

愛知県田原市の海岸で12日、子どもたちが海を通してSDGsを学ぶイベントが開かれました。

海の学校と名付けられたこのイベントには、田原市赤羽根町の砂浜に約30人の小中学生が集まりました。

東門家から 砂浜の植物は強い風の中でも育つように

<中日新聞 6月15日掲載>

波の乗り方を教わる子どもたち＝田原市赤羽根町で

親子ら 海でSDGs学ぶ 田原

海と触れ合って持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ「海の学校 in 愛知」が12日、田原市赤羽根町の赤羽根ロコパークであり、県内の親子ら計321人が参加した。

砂遊びで障害のある子どもたちと交流するイベントを毎年開く「たはらサンドアート実行委員会」の主催。海に関する体験教室を開く「Blue Drop（ブルードロップ）」（同市小中山町の松野弘美さんが講師となり、海の生態系や人間が出したごみが生き物に与える影響などを砂浜を歩きながら解説した。

同市在住の杉原康幸さんと、米・ハワイ在住の堀口真平さんのプロサーファー二人から波の乗り方を教わるサーフィン体験や、海岸清掃で拾ったごみや流木、目録を使ったアート作品作りもあった。

海の学校の思い出を振り返った子どもたちの絵日記が21日～七月三日、田原市中央図書館で展示される。

（鈴木弘人）

<東愛知新聞 6月14日掲載>

東愛知新聞 2022年（令和4年）6月14日（火曜日） 社会（6）

プロに教わり浜辺で楽しむ

田原で小中学生ら「海の学校」
波乗りや貝殻アートなど体験

サーフィンに挑戦する子どもたち＝あかほねロコパークで

小中学生がサーフィンなどを体験する「海の学校 in 愛知」海と日本プロジェクトが12日、田原市赤羽根町の「あかほねロコパーク」であった。25家族31人が参加した。主催は、たはらサンドアート実行委員会。海に生きた物を探したり、ビーチクリーンに参加してごみ拾いをしたり、拾ったクラステンックごみや貝殻を使ってアート作品を作ったりした。一般サーファーや空手道太学生らのサポートもあり、多くの子どもが浜遊びを楽しんだ。

波乗り体験教室ではプロサーファーの堀口真平さんや杉原康幸さんの指導で、サーフボードやボディボードに挑戦。浜辺で波に乗った時にボードの中央でしっかりと半身で立つ練習をしてから海上へ出た。向かってくる大きな波を捕まえ、勢いを付けてからボードの上で、上手に立てた子ども